

令和元年度 青少年問題を考える地域懇話会

当協会では市町村民会議の活動を支援するため、地域の青少年問題について、有識者と地域の育成指導者が意見交換等を行う「青少年問題を考える地域懇話会」を開催しています。令和元年度は、11月に大樹町・枝幸町の2箇所で、それぞれの青少年育成市町村民会議と共催し開催しました。

【大樹町】テーマ「若者（青少年）が自ら考えて行動する地域づくり」

- 日 時 令和元年11月19日（火）
- 場 所 大樹町生涯学習センター
- 共 催 大樹町青少年健全育成推進町民の会
- 後 援 大樹町教育委員会
- 講 話・意見交流助言者

講話題「若者（青少年）が自ら考えて行動する地域づくり」

NPO法人 ezorock 代表理事 草野 竹史 氏



●意見交流進行役

意見交流テーマ「若者（青少年）の主体的な活動を促すために」

十勝教育局教育支援課社会教育指導班主査 佐々木 直人 氏

●概 要

講話では、NPO法人 ezorock 代表理事の草野竹史氏から、石狩市で行われた野外音楽フェスティバル「RISING SUN ROCK FESTIVAL」におけるごみ分別ナビゲートをはじめとする「環境対策活動」をきっかけにNPO法人 ezorock を立ち上げ、以降、多くの若者と地域課題を切り口に札幌市内のサイクルシェアの管理運営、国立公園での道案内や道の補修、災害支援など多岐にわたる活動実践の紹介がありました。若者たちを巻き込み（集める力）、チームで活動に取り組み（コーディネートする力）、各地で活躍する担い手を育て（人材育成）、NPO団体、市町村、企業などと連携しながら、地域が抱える課題に「若者が自ら考え行動できる力」を引き出す場が必要であり、そのためには若者の思いを聞き取る仕組が大切であるとお話がありました。特に、参加者に対して若者の声を聞き取る機会や場があるかの問いの中で、「ざっそう（雑誌・相談）」雑誌の中に相談が生まれるといったお話が印象的でした。

意見交流では、佐々木主査の進行により、「若者（青少年）の主体的な活動を促すために」をテーマに、若者のニーズ、やりたいこと、声のどのような場面、どのように聴いているかについて交流した後、若者のニーズが上がったらどのように具現化していくかについてワークショップが行われました。

【枝幸町】テーマ「地域全体で子育てを支援する体制づくり」

- 日 時 令和元年11月22日（金）
- 場 所 枝幸町中央コミュニティセンター
- 共 催 枝幸町青少年育成ネットワーク
- 後 援 枝幸町教育委員会
- 講 話・意見交流助言者

講話題「子供たちへの食支援活動を通じて見えてきたこと」

藤女子大学人間生活学部食物栄養学科准教授 隈元 晴子 氏



●意見交流進行役

意見交流テーマ「地域で考え、行動する子育て支援のあり方」

枝幸町教育委員会社会教育主事 齋藤 巧 氏

●概 要

隈元先生の講話では、はじめに、子供の7人に1人が貧困であること（35人の1学級中に5人が貧困家庭）、ひとり親家庭の半数の子供が貧困状態にあり、北海道は他の地域と比べ割合が高く深刻な状態であるとお話がありました。次に、札幌市北区の『麻生キッチンらあん』で行われている子供たちへの食支援活動として、①子供たちが大人と一緒に他愛もない会話をしながら、同じ食事を楽しむことができる「共食」の場、また、②「料理をしてみたい」「食材に触れてみたい」といった子供たちの「やってみたい」という気持ちを引き出す体験活動の場、さらには、③子供たちへの学習支援を目的として運営されており、希望者のみが勉強の「ついでに」ご飯を食べる場、になっているなど活動内容が紹介されました。

意見交流では、齋藤社会教育主事の進行により、今後の子育てへの支援・取組として①ファミサポ事業（子育ての援助を受けたい人と援助を行いたい人を「つなぐ」、町民のみんなであつくる相互援助活動）など、教え合い・学び合う環境づくりが必要であること、②こうした活動を広げるための情報発信の工夫、③子供たちに行事等の参加を促し体験をしてもらうこと、④子供が自由に集まれる場所づくり、そして何より⑤親・地域からの愛情が大事である、など、参加者の意見が交流されました。

最後に隈元先生から、「困っている親たちがサービスを素直に受け入れられる環境づくり」「枝幸町は専門家のサービスを受けやすく、目が届きやすい利点を最大限に活用してほしい」「子供は毎日、小さい評価を受けて育っていく。身近な地域の人たちから受ける声掛け（評価）は、子供を育てていくため、ぜひ明日からやってほしい」などの助言をいただき閉会しました。